

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	経済建設常任委員会
参 加 者	委員長 鈴木 英樹 副委員長 加藤 義幸 委 員 鈴木 雅子 野島 さつき 大原 昌幸 井町 圭孝 荻野 秀範 小木曾 智洋 杉山 智騎
視 察 日 時	平成29年 1 月19日（木） 9：30～11：00
視察先・概要	栃木県佐野市 人口：120,437人 世帯数：50,518世帯 面積：356.04 k m ² 特記事項：住みよさランキング2016（東洋経済）総合290位 （安心612位、利便254位、快適295位、富裕332位、住居370位）
視 察 項 目	「アウトレットの活用と中心市街地活性化」について
視 察 概 要	<アウトレットの活用> 佐野市のまちなかは、伝統文化と、食文化が融合した魅力がある。さらに鉄道やバスに代表される公共交通機関や行政サービス機能などが充実しており、生活をする上においても、大きな魅力をもっている。これらの魅力を1つのブランドとして融合させた「佐野らしさ」を演出しながら、誰もが暮らしやすい環境、来て楽しい環境、歴史を感じ、創造性あふれる環境など、まちなか本来の姿を取り戻すべき環境をテーマに「まちなか元気アップ日本一」を目指している。 佐野市への観光客入込数は、平成15年3月のアウトレットオープン後、大幅に増加している。観光客宿泊数は、アウトレットオープン後の大幅に増加し、その後は減少傾向であったが、近年は増加傾向にある。 アウトレットへのアクセス道路はオープン前には慢性的な渋滞は起きていなかったが、オープン後にGWや年末年始等で大規模な渋滞が発生した。これを受けアウトレット事業者は駐車場を増床し、国はアウトレットへのアクセス道路となる国道50号線の右折レーンを延長し、市はNEXCO東日本等にスマートICを開設働きかけ、佐野SAにスマートICが開設されるなど、それぞれが交通渋滞緩和に向けた取り組みを実施した。アウトレットを活用した取り組みとしてアウトレット内に、佐野コミュニケーションセンターを設置し、佐野市の観光案内、地場産品・特産品の紹介を行っている。今後は、JRバス、はとバスなどと連携した東京～佐野周遊バスの運行、中心市街地をはじめとする市内各地域におけるおもてなしイベントなどの取り組みを更に充実させていく。 <中心市街地活性化> 平成21年に佐野駅周辺地区を戦略的まちなか活性化エリアとして位

	置づけた「佐野市中心市街地活性化基本計画」を策定し、持続的なまちなかの活性化を目指している。まちなか活性化の基本コンセプトは「佐野らしさを誇れる小洒落たまち」とし、具体的な施策展開は、まちなか居住の推進、市民活動の推進、新しい佐野の魅力の創造・発信、歴史伝統を活かした風格ある美しいまちの形成、まちなかの回遊性の確保、まちなかへのアクセス性向上を軸として各種事業を展開している。 アウトレットの来訪者を少しでもまちなかへ呼び込めるかが課題であり、アウトレットから佐野駅へ行ってみたいとなるような魅力の創造・情報発信に取り組んでいる。
所 感 視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・佐野市のアウトレットは平成 15 年 3 月にオープンし、地方税収増及び佐野市への観光客入込数の大幅増等、活性化の一翼を担っているようだ。反面、周辺道路の渋滞、中心市街地の空洞化等の問題も浮上して、渋滞対策には力を注いだようである。中心市街地の活性化については、住みやすいまちづくりの面では、まちなかサロン・子育て支援センター運営事業等が進んでいるようであるが、アウトレット客の街中への誘導・回遊が進んでいないようだ。本市において、アウトレット進出が正式決定した後は、第一にオープン前の周辺道路の渋滞対策が必要不可欠であり、アウトレットオープンによる、中心市街地の店舗等にどのような影響がでるのか、的確な判断が必要で、その対応もすべきである。アウトレット客の歴まち観光への誘導策も考えるべきと思った。 ・アウトレットオープン以降年間 850 万人が観光客として訪れているが、まちなかへ呼び込むのはなかなか難しいようだ。岡崎においても、八丁みそ蔵通りや岡崎城、みそ煮込みうどんなど「岡崎ならではの」観光資源をいかに PR し、まちなかに回遊してもらえるかをしっかり考えていきたい。また、交通渋滞対策として、国道 1 号線以外の道路整備、アウトレットからリバーフロント地域への誘導路や、駐車場の問題など課題はたくさんあることを実感した。 ・佐野市は新都市計画として事業者に依頼をして、イオンとアウトレットが誘致された。行政としては事業者に丸投げをした状態なのでアウトレットがオープンして 10 年以上経っても後手後手の対応となってしまう。本市としてもアウトレット誘致の検討段階から、交通渋滞、アウトレット来場者の市内回遊への同線はきちんと検討、実施をお願いしたい。 ・800 万人/年の誘客能力を持つアウトレット、佐野市はアウトレット客に佐野ラーメンを食べてもらう事で、一部市内への誘導に成功しているが、岡崎市もアウトレットがきた後、市内観光してもらうための武器をつくる事を真剣に考える必要がある。 ・去年の市長選挙直後に三井不動産からオファーを受けて説明会が行われたようだが、岡崎市でも 渋滞 中心市街地 観光の 3 つの課題をクリアすることは難しいと考える。

	・岡崎市にアウトレットが出店する際には、岡崎の特産品を紹介するコーナーの設置や、渋滞対策のためスマートＩＣの設置をしていくべき。また、ＪＲ岡崎駅などからの直通バスなども事業者と協議していくべき。 ・今回の視察では、アウトレットモール誘致によるメリット・デメリットが見えてきたように感じた。まず、メリットであるが、観光客入込数が１．５倍から２倍に増加、税収が２７億円増加している。しかし、デメリットは施設までの道路の渋滞、地元商店への影響など問題が示された。岡崎市も今後このような計画があるが、市域の東部地域であり同じような影響があると思われ、特に計画地域は交通機能が脆弱であり、国道１号線が唯一の幹線であることから交通渋滞は避けられない状況となることが予想される。地域内を走る県道の改良を進め開設後地域住民の生活に支障をきたさない検討が必要であると考えている。また、地元商店街への影響は、売上代の減少・客数の減少など商店への影響を十分検討して、アウトレット来客者をいかに市内の観光地に誘導するか十分検討する必要がある。 ・佐野市の中心市街地は市域全体と比較しても人口減少と高齢化が顕著に進み、空き店舗も増加の一途を辿っていた。中心市街地の活性化に対する施策の内容については、本市と比べても大きな差異は感じられなかったが、民間主導に大きく力を入れているようであった。郊外型アウトレットの出店により観光客は大幅に増加したが、交通渋滞や近隣既存小売業の売上減少といった影響が見られた。本市にも東部地域にアウトレット進出の計画があるようだが、大局的な経済効果は大いに期待できるが、その反面様々な局所的悪影響が考えられる。その悪影響を事前に出来る限り想定し、早期対策を施すことが重要である。また、アウトレットのみで完結させてしまう観光客をどの様に中心市街地へ誘導するのも喫緊の課題であると考えている。郊外型ゆえに自動車での来訪が考えられるため、中心市街地における駐車場整備や、アウトレットを起点とした公共交通網の整備も必要である。
委員長の総括	参考及び今後本市へ活かしたい事項 <インフラ整備について> ・アウトレットの設計に対し、事前に渋滞緩和策の検討など、国・県・市と地域、民間が連携する体制づくり <アウトレットによる相乗効果について> ・アウトレット内に本市のＰＲセンター設置交渉や、本市の商店街や物産と重ならない様に店舗構成をしてもらうこと。 ・アウトレットから巡回バスで市内の飲食、歴史、文化財への誘導策の検討を平行して進める事も重要な施策と考える（本宿、藤川宿も）。